



教会短信

2013年8月4日

No. 52

牧師 間瀬 善彦

「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります」(ヨハネの手紙第一4章10節)。

人生には必ず重要な岐路があります。どちらに進むかによって、その後の人生が変わります。その時、正しく判断できる人は幸いです。しかし、たとえその時、間違った選択をしていたとしても、後から振り返って、自分の人生を喜びを持って認めることができるならば、それは幸福な人生であったということになります。

わたしは代々神主を務めた家に生まれました。実家の敷地内には、使われなくなった古い神社が立っています。明治の神社統合の時、町にいくつかあった神社は統合されて、町の1つの神社になりました。その時、わが家の神社の神様も1か所に集められたということで、今は神社の中には神様はいないと父に教えられました。そうした家の宗教についての由来を幼い頃から父に聞かされて、だんだんと誇りに思うようになり、いつしかわたしも神主になって、伝統ある家の宗教を継ぎたいという思いが芽生えてきていました。そして、小学生くらいの時には本気で神主になることを考えていました。

そのわたしが今はキリスト教の牧師として立たせていただいております。わたしにとって人生の岐路は、初めて20歳の時に教会に導かれ、聖書の御言葉から自分が罪人であることを示された時です。このわたしの罪を贖うために、神が尊い御子イエスをわたしの身代わりに十字架につけて殺してしまうほど、このわたしを愛してくださることを知らされました。それまでは、神社の神が本当の神様だと思っていました。しかし、教会に行って知った新たな神との出会いがありました。教会の神はご自分の御子を犠牲にしてまでして、このわたしを愛してくださるということです。

神社の神と教会の神、どちらが本当の神なのだろうか。これからどちらの神を自分の信じる神として信じていくべきなのか。どちらでもいいとは思えませんでした。自分にとっては、その時真剣な問いでした。そして、随分と考えさせられました。その結果、わたしは教会の神、イエス・キリストを自分の生涯の救い主として従っていくことを決心しました。それはどうしてかと言いますと、「神は愛」であることを信じることができたからです。

祈り

私はクリスチャンとして祈りの大切さを知っていると思っていましたが、最近、改めて祈りの大切について考えさせられることがあります。



「願いと祈りと執り成しと感謝とをすべての人々のためにささげなさい」

(テモテへの手紙第一 2 章 1 節)

6 月末に教会の男子青年の結婚式がありました。結婚式は教会で荘厳に行われ、披露宴は別の会場で明るく楽しく行われました。披露宴で男子青年（新郎）の会社の上司がお祝いのスピーチをされた中で、彼が結婚式直前に会社の昇進試験を受けていたこと、それで無事に昇進試験に合格したことなどを知る事が出来ました。私は、この時、胸がいっぱいになり目がしらが熱くなりました。それは、彼は結婚式前であっても休まずに、日曜日は教会の礼拝に来ていました。その上、教会の諸々の奉仕も責任を持ってやってくれます。職場の昇進のための勉強、結婚式の準備、日曜日は礼拝を守る彼を思うと、偉いなあー、頑張ったなあーと思いました。彼は結婚式後、可愛い奥さんと一緒に礼拝に来るようになりました。教会に、お二人の御両親から「これから二人をよろしくお願ひします」と挨拶がありました。また丁寧な手紙が来ました。この御両親の頼みに、どう応えたらよいのか責任を感じました。可愛い奥さんと彼二人のために神様に祈るしかないと思い、今は毎日二人のために祈っています。

彼の結婚がきっかけとなり、この二人のためだけではなく、教会の友のためにも祈らなければいけないと思いました。一人ひとりが豊かな人生を歩んで行けますようにと毎日祈っています。お祈りをする事は、祈ることを知っているクリスチャンにしかできないことです。

クリスチャンは週のはじめの日曜日に教会にきて神様に礼拝をします。礼拝の中で最も大切なことは、牧師から聖書のお話を聞きます。聖書のお話は厳しいこともありますが、生きてゆく上で大切なものです。神様に祈ることもとても大切です。教会の友のために、祈る時間は、私にとって至福の時です。

K. M.

聖書の言葉で磨かれた人たち

青山 ^{あきら} 士

明治時代の日本は、近代国家としての形を急速に作りあげた時代でした。お雇い外国人が去り、日本人自らの力で国を築く時期に、内務省の技師として活躍した青山士も、聖書の示す生き方に従った人物でした。

東京帝国大学工学部土木工学科を卒業すると、級友の大半が国の官僚となるなかで、ちょうど建設中だったパナマ運河の建設に技師として参加。渡航資金は借金でつくり、技術者としての情熱に突き動かされて挑戦しました。

約8年後に帰国すると内務省に採用され、埼玉県から東京東部を流れる荒川放水路の建設を担当。22キロにおよぶ大河をゼロから作る巨大プロジェクトでした。数年ごとに洪水をおこす「荒ぶる川」は、そのたびに犠牲者を出し、生活に困窮する人々を生み出しました。青山は測量や設計、施工を行い、13年にわたる難工事を支えました。

彼が学生時代に捧げた祈りには、その後の人生がすでに示されていました。「爾（なんじ＝神）の為め、我が国の為め、我村の為め、我家の為に御使い給はん」

（『聖書の品格』いのちのことば社から引用）



主日礼拝 . 日曜日の朝の礼拝を主日礼拝と呼びます。

「信者でないのですが、行ってもいいですか？」とよく聞かれます。

もちろん、だいじょうぶです。教会はどなたでもお越しいただけます。

みなさん聖書の言葉を通して元氣と豊かさをいただいております。

ぜひ気軽にお越しください。心から歓迎いたします。

聖書を学ぶ会

- 牧師から詳しく聖書を学びます。
- 讃美歌も歌い楽しい会です。

毎週火曜日 午後1時30分～2時30分

祈祷会

- 静かな夕べに聖書を学びます。
- 共に祈り合います。

毎週水曜日 午後7時30分～8時30分

教会学校（幼児科）

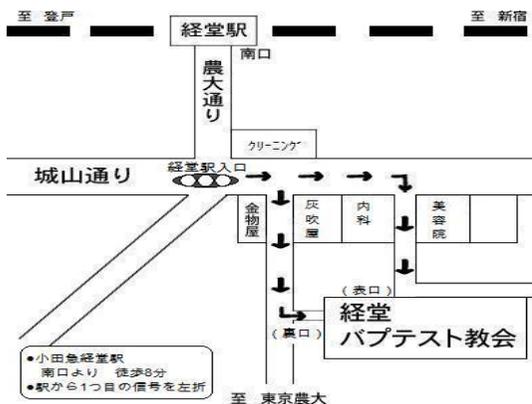
- かわいい讃美歌を歌って、聖書のやさしいお話を聞きます。お祈りもします。

毎週日曜日 午前10時～10時20分

教会学校（成人科）

- 礼拝の中で、牧師のお話を聞いて、感想や意見を述べ合います。わからないところは質問もできます。

毎週日曜日 礼拝後



経堂バプテスト教会

牧師 間渕 善彦

〒156-0053 世田谷区桜1-64-30

TEL 03-3427-2352

※当教会はプロテスタント教会です。エホバの証人、モルモン教、統一協会などとは異なります。